

# この地で生きがいをもって 生きぬくため

〈総務文教常任委員会先進地視察〉

10月28日～30日

## 綾部市

トチの実加工で  
「限界集落」が活気  
づいた

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」という水源の里の理念に基づき流域連携の必要性を全国にアピールする目的で、綾部市が中心になり全国水源の里連絡協議会を発足し、現在162団体が加盟している。

古屋集落という限界集落では、3世帯4人でトチの実を利用した餅や煎餅、お菓子、焼酎などを販売。このことをSNSにて発信、賛同金、ボランティア、催しを通じ集落消滅の危機を救った。

コミュニティナース事業では、施設や病院ではなく、地域の中で日常的に住民と関わり、健康増進や地域のコミュニティ

活動を支援している。食習慣、運動不足等、住民の自主的な健康づくりを支援し、生活習慣病をはじめ、閉じこもりがちな高齢者の社会的孤立感の解消、自立生活を助長すること、寝たきりや認知症を遅らせることにつながり、健康寿命の延伸、介護の負担を減らしている。



トチの実を利用し全国にアピール

## 亀岡市

けがや事故などは  
予防することができる

今回、セーフコミュニティについて学んだ。

高齢者の安全、交通安全、乳幼児の安全、自殺対策、防犯対策、スポーツ安全の対策委員会を六つ作りそれぞれが具体策を講じている。

### 《調査を終えて》

時代や社会の移り変わりは止めようもないが、限界を迎えるまで精いっぱい生きぬくという綾部市の3人の高齢者の力強い生き方に感動した。

また、コミュニティナースの活動こそ、地方創生のモデルとも言えるものである。

水源の里政策もコミュニティナース政策も限界は感じたが、地域住民が元気で、活気があることは事実である。

# 「チーム議会」として

## 政策提案を

〈議会運営委員会先進地視察〉

11月7日～8日

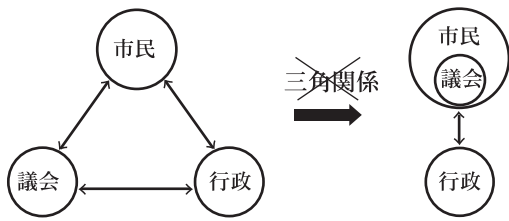
## 西協市

議会活力度、  
全国No.1の  
市議会とは

議会の総意により、市民・行政・議会の三角関係から、市民⇄議会・行政という双方の考えで、議会改革に様々な形で取り組まれている。中でもこの考えが見事に反映されているのが、議会と語ろう会（議会報告会）

議会の総意により、市民・行政・議会の三角関係から、市民⇄議会・行政という双方の考えで、議会改革に様々な形で取り組まれている。中でもこの考えが見事に反映されているのが、議会と語ろう会（議会報告会）

### 市民・議会・行政（市長）の関係



議会は市民の中にある

## 市議会 市民参加の拡大 による議会の 機能強化を

西協市に勝るとも劣らずの議会改革に取り組み、議会基本条例の検証・見直しをはじめ独自の発想で議会サポーター制度や委員会代表質問の導入などを取り入れている。

また、請願・陳情は市民からの政策提案として位置づけ、申請者の意見を聞く場を創設し、意見陳述が100パーセント実施されている。

の取り組みと請願・陳情の扱いである。

議会と語ろう会は、ワークショップ形式により、年間40会場で開催され、市民との意見交換を行い、政策実現に向けた活動としている。

議会サポーター制度は、議会における市民参加の重要性から、民主的な議会運営のために導入された。募集によって選ばれた一般市民のサポーター（20名程度）から、議会に対する多様な声を聞き、一つ一つを真剣に受け止め、議会に関心を持つ市民の拡大を目指している。

### 《八女市にどう生かす》

共通することは、議員一人一人が「チーム議会」として力を発揮できる取り組みを実践し、政策中心の議会を目指している。議会改革においては、両市議会の事例を含め協議を継続しながら、できることから取り組むべきと考える。

何よりも、八女市議会基本条例の検証・見直しを優先して、両市議会の手法を研究し速やかに実行に移したい。

# いきいきと元気に過ごす まちづくりを目指して

〈厚生常任委員会先進地視察〉

10月9日～11日

愛知県大府市の認知症対策、東海市のいきいき元  
気推進事業、奈良県生駒市の介護予防の取り組みに  
ついて調査した。

## 大府市 認知症に不安の ないまちづくりを 推進

健康は、家庭・社会に  
とって最大の財産であ  
り、心身の健康は自分で  
守り、つくるものである  
という「健康づくり都市  
宣言」のもとに「認知症  
に対する不安のないまち  
づくり推進条例」を制定  
し、認知症対策のため  
様々な施策を実施してい  
る。



認知症予防の「しかけ」が  
ある大府市の公園

## 東海市 元気あふれる 快適都市を目指す

運動応援メニューや食  
生活応援メニューで、健  
康を意識するきっかけづ  
くり、心と体がよるこぶ  
食生活づくり、人と人と  
がつながる場づくりを推  
進している。また「トマ  
トで健康づくり条例」を  
制定し、トマトを通して  
健康づくりのプロジェク  
ト事業を展開している。



東海市は「トマト」で健康  
づくりに取り組んでいる

## 生駒市 超高齢化社会を 恐れないまちを 目指す

「支えられる側から支  
える側」をモットーに  
自立支援と介護重度化防  
止を図るために、「憩い  
の場の創設」や「いきい  
き百歳体操」「認知症カ  
フェ」「いきいきクープ  
ン券の交付」など多彩な  
事業に全庁を挙げて取り  
組んでいる。

## 〈八女市にどう生かす〉

3市は、行政が市民・  
地域・団体・関係機関と  
共に、介護を受けない、  
認知症にならない「いき  
いきと元気に過ごすまち  
づくり」に頑張っており  
ました。

八女市でも「スポーツ・  
健康づくり都市宣言」に  
沿った、市民一人一人が  
健康に対して意識を高  
め、積極的にスポーツに  
親しむことで、健康寿命  
の延伸につなぐための政  
策を提言していきたい。

# 八女市の合併浄化槽を どう推進するのか

〈汚水処理対策特別委員会先進地視察〉

11月15日

流域下水道の範囲が決まり、残りは合併浄化槽を推進するわけだが、設置費・  
管理費等で不公平であると市民から不満の声が聞かれた。

議会は、さっそく「汚水処理対策特別委員会」を設置し、先進地の佐賀市と嬉  
野市の市町村設置型の浄化槽事業<sup>(※)</sup>を視察研修し検討を始めることとした。

市町村設置型は、市が用意した浄化槽を使い管理も市が行うもので、個人設置  
型と比較して、市民の負担は安くなるものの、市の財政負担が大きくなるもので  
ある。 ※現在の浄化槽法では、浄化槽といえば「合併浄化槽」と定められています。



市が設置する浄化槽事業の課題を聞く

## 佐賀市

市営浄化槽事業へ変更  
した理由としては、公平  
性を確保する目的である。  
市営浄化槽の普及率は  
平成30年度で43%と過去  
6年間で2倍以上の普及  
率である。その一方で経  
費回収率は厳しい状況  
で、維持管理費の抑制や  
適正な使用料改定が課題  
となっているようである。

## 嬉野市

市営浄化槽事業へ変更  
した理由は、公共サービ  
スの公平性。10年後の完  
了を見据え、個別処理区  
域の浄化槽整備の加速化  
が必要とすることである。

普及率12・5%とまだ  
低い。公共下水道を縮  
小して市営浄化槽への移  
行が進められており、普  
及率はさらに上がるもの  
と思われる。維持管理費  
は使用料で賄えていな  
い。  
令和3年には料金体系  
を統一し、今後、公営企  
業会計へ移行し、全体的  
な料金改定が必要と考え  
てあるようだ。

## 〈調査を終えて〉

市の環境美化の推進、  
公平なサービス提供と市  
の財政負担等々を検討し  
なければならぬ。  
先進地に学びながら  
しっかりと議論をしていき  
たい。